



海老原誠治 (えびはら せいじ)

いただきます.info事務局、三信化工株式会社、資源と環境と教育を考える会「エコが見える学校」、女子栄養大学短期大学部非常勤講師、関東学院大学非常勤講師。和食器を用いた出前授業や、テレビ局の撮影クルーの経験を生かして動画作成の研修会の講師も務める。

スマホの活用／ 100円広角レンズの実力

スマホ・タブレットのストレージ（データ記憶容量）を使用した動画編集は、あまりオススメできませんが、カメラ機能としては、小さい・薄い・身近にある・処理がすごい、などと非常に魅力的で、使わない手はありません。

▶ 小さい強みと自撮りモード

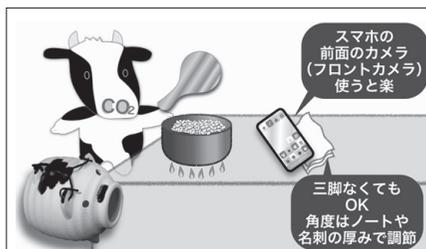
小さく薄いことは、いろいろな目線から撮りやすいことでもあります。例えば虫の目線・動物の目線で、地面間際から作物を見上げるような映像も撮れます。調理台や卓上において、作業を見上げるような映像も良いでしょう。

低い位置からの撮影は、一般のカメラでは、液晶モニター・ファインダーの確認が

困難です。しかし、スマホのフロントカメラ（自撮りモード）を積極的に用いると、1人であっても容易に画像確認もでき、撮影の幅が広がります。この際の液晶の表示は、手鏡と同じ反転した鏡像になります。

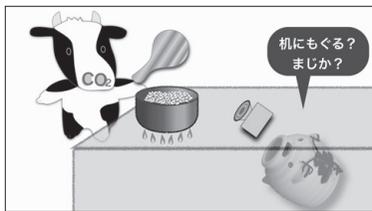
撮影時、スマホ三脚（100円ショップで購入可）の使用もいいのですが、角度調節は、重ねた名刺や付箋など厚みのある物で行う方が安定してオススメです（左下図）。汚れが気になる際には、100円ショップで買える防水袋の活用も良いでしょう。

ちなみにスマホ液晶側の裏にあるバックカメラ（アウトカメラ）は、距離のある風景を撮ることも想定し画質が高い一方、主に自撮りなど近くの物の撮影を想定するフロントカメラは、若干、低画質の場合が多いようです〔撮影画像の詳細情報（Exif）で確認が可能〕。画質にこだわりたいとき



▼一方、通常のビデオカメラだと映像の確認が難しい。

▲スマホ・タブレットでは、卓上に置き、見上げるようなアングルが撮りやすい。スマホのフロントカメラ（自撮りモード）を用いると、画像の確認が楽で、一人での撮影も可能。



▲スマホ・タブレットによる撮影事例【ボウル→スマホ（卓上置き）→盛り付けの皿→実習者】の配置で、スマホの上を越えて盛り付け。スマホは自撮りモード。
[千葉県船橋市におけるICTセミナー、撮影の演習より]

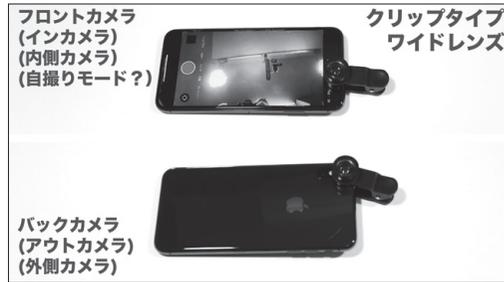


▲下から見上げる角度でフタを取ると、湯気が際立つ映像に！ 広角レンズ使用。[千葉県船橋市におけるICTセミナー、撮影の演習より]

◀動きのある調理を下から撮影すると、ダイナミックな動きが撮影できる(広角レンズ使用)。撮影中、広角レンズがズレ、右がケラレてしまっている。[福島県学校給食研究会安達支部におけるICTセミナー、撮影の演習より]



▲100円ショップで買えるクリップタイプのワイドレンズ。



▲クリップタイプのワイドレンズをスマホに取り付けた状態。



▶ワイドレンズの一般的なくせ。中心より上の水平線は凸に歪み、中心より下の水平線は凹に歪む。

中心より下の水平線は凹に歪む

中心より上の水平線は凸に歪む

広角レンズではレンズの直径が写せる面積に追いつかずしばしば「ケラレ」が発生

「ケラレ」防止には、少しだけ望遠にしてケラレのない部分のみを活かす

※ 上下の写真は×1倍ですが、真ん中だけ×1.1倍でケラレを避けました

には、バックカメラ（アウトカメラ）の選択を考慮ください。

▶ 100円広角レンズ

スマホのメリットは、大量に流通し浸透していることです（スケールメリット）。このため、関連のオプションも豊富で安価です。2,000～4,000円していたコンパクトな広角レンズ（クリップタイプ）も、簡易

ではありますが100円ショップに出回ります。画像の端は、歪みやすい・ケラレ（画面の隅にレンズフードなどが黒く写り込む）やすい（上図）など癖もありますが、今回の撮影事例のように、近くから広く撮影したい場合、非常に助かります。可能性を知る上でも、ぜひ、お試しください。

[コンテンツ作成協力：(一社)はしわたし研究所]
[郷土料理データ提供：ロケーションリサーチ(株)]